

流域および河川の概要

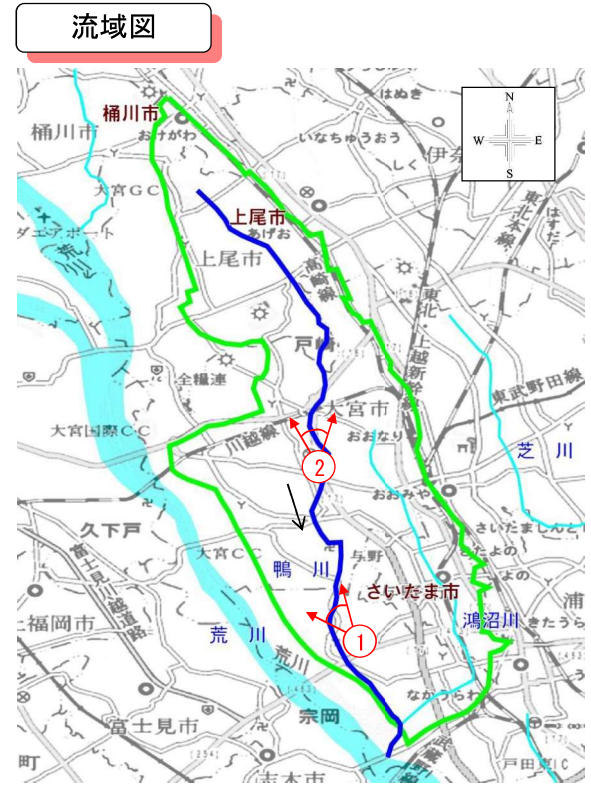
- 鴨川は、上尾市北部の大宮台地を水源とし、台地の谷底低地から荒川低地を流下し、昭和 water gate を経て荒川に合流する流域面積 63.69km²、流路延長 17.8km の一級河川である。
- 桶川市南部、上尾市中部、さいたま市西部を流域に持っており、鴨川の特徴は、国道 17 号、JR 高崎線、JR 宇都宮線沿いに桶川市からさいたま市にわたり市街地が形成され、流域の約 9 割が市街化区域に指定されている。

河川整備の概要

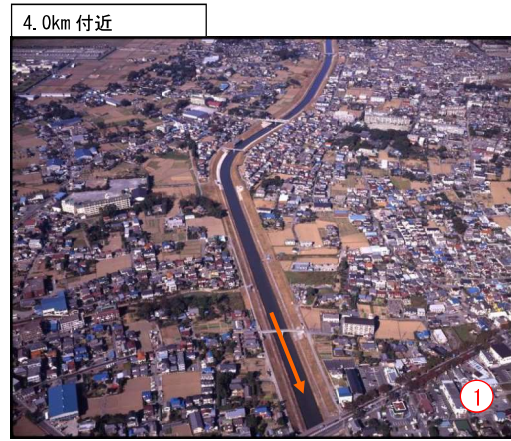
- 鴨川では、多くの区間で浸水被害の防止、軽減のための目標を達成している。よって、河川工事は、学校橋付近 (4.76km) から 4.82km までの右岸側 0.06km、4.94km から 4.97km までの右岸側 0.03km、栄橋付近 (8.52km) から 8.58km までの左岸側 60m の合計 0.15km において河道拡幅、河床掘削を行い、流下能力の向上を図るとともに、親水性の確保を図る。
- 水環境の改善に努める。

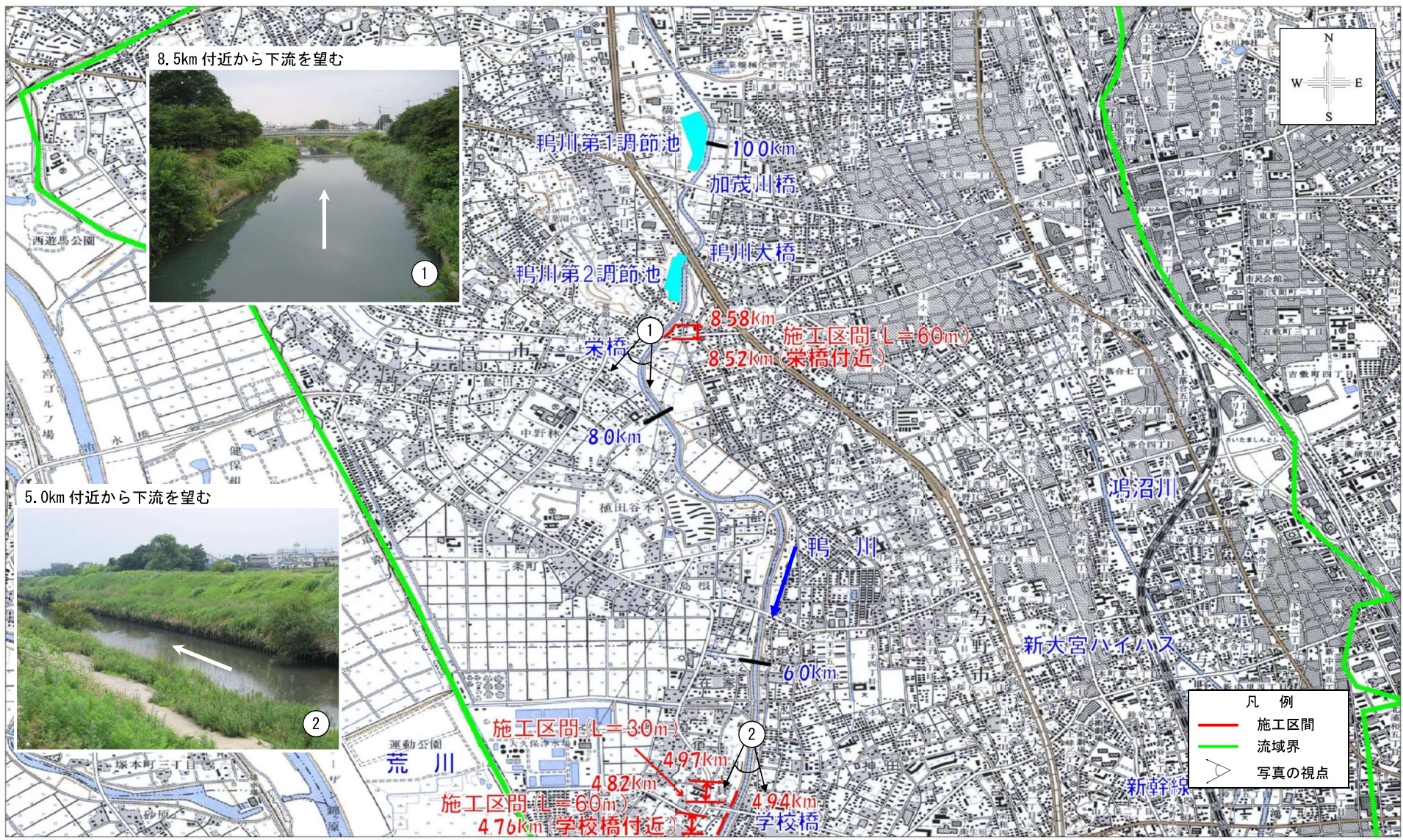
整備にあたっての配慮事項

- 地域住民の憩いの場となるように、景観と調和した親しみやすい川づくりに配慮する。
- 整備にあたっては、上下流の整備済区間とのすりつけや、周辺の景観に配慮した親しみやすい川づくりを行っていく。



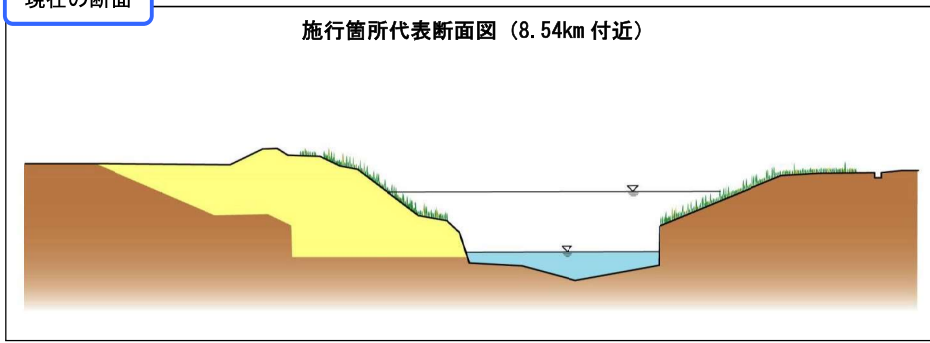
河川沿いの状況





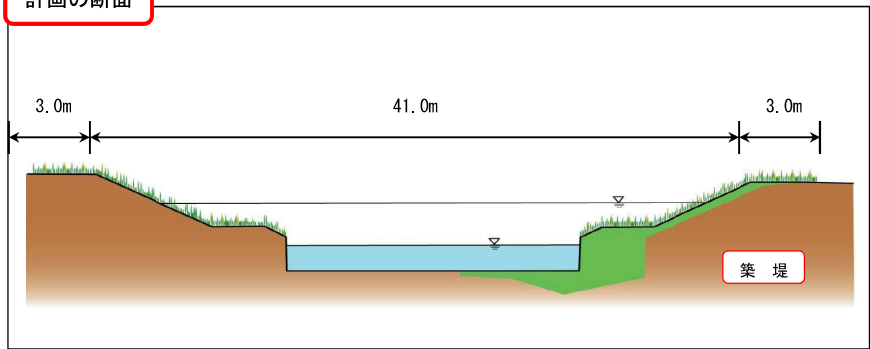
鴨川整備平面図 S = 1 / 25,000

現在の断面

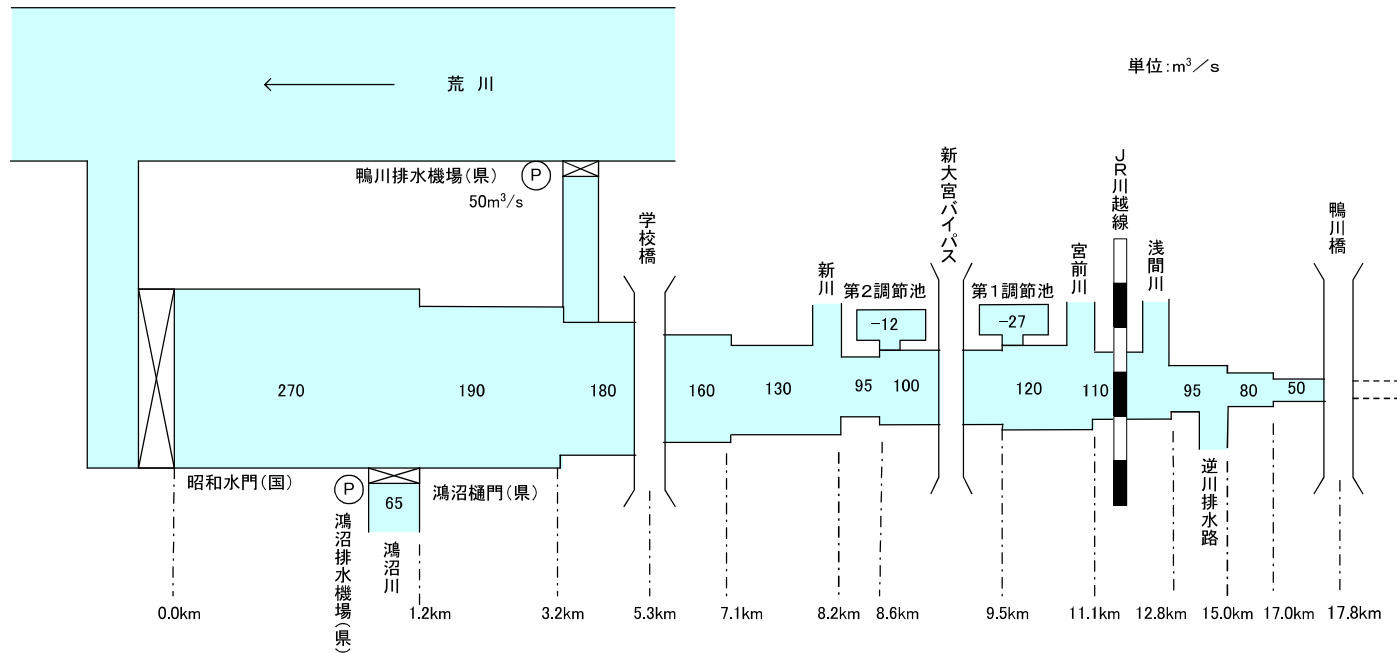


河道拡幅・河床掘削

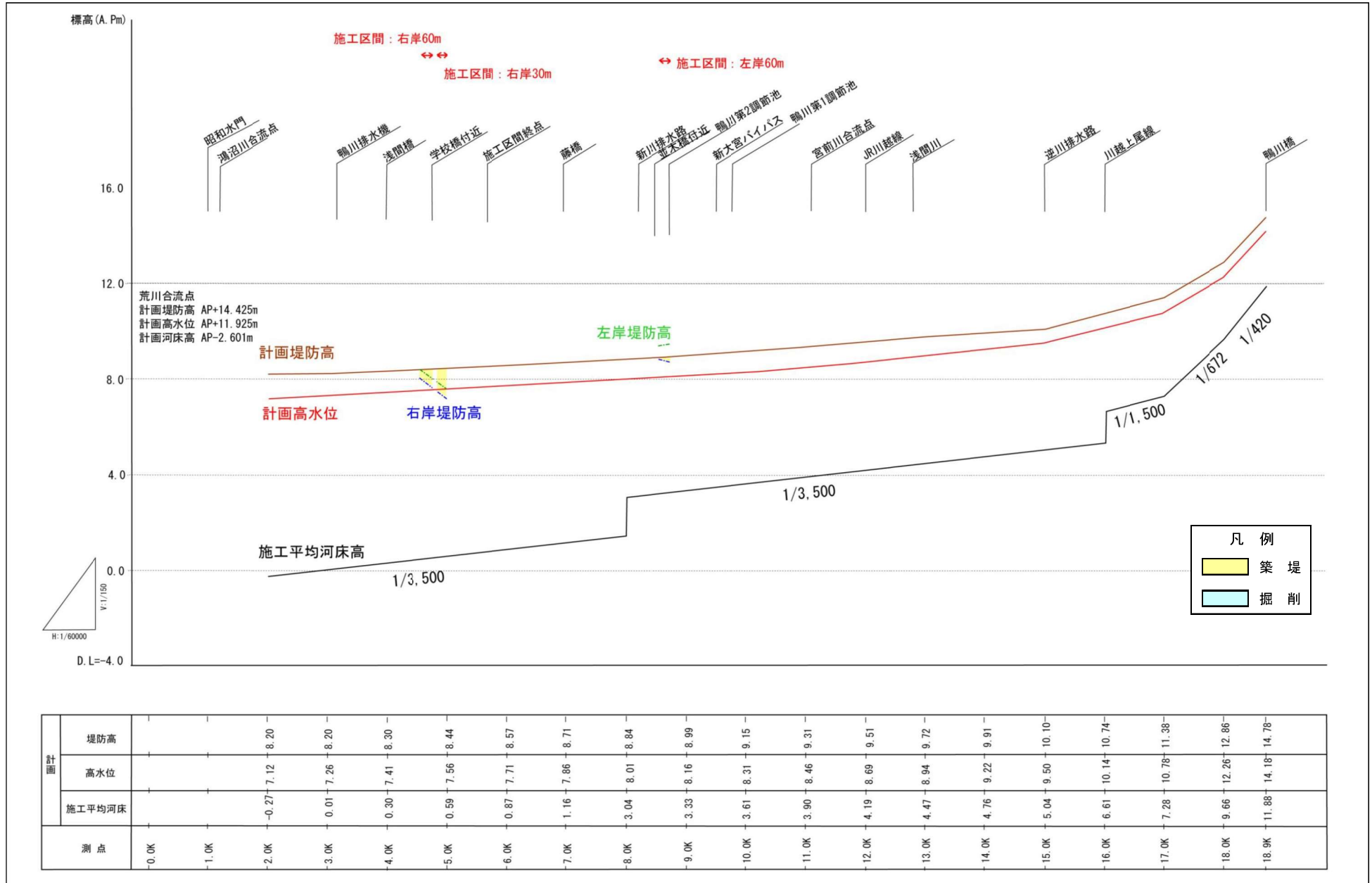
計画の断面



流量配分図



鴨川縦断図



流域および河川の概要

- 鴻沼川は、さいたま市北部の大宮台地を水源・流域とし、台地の谷底低地から荒川低地に流れ込み、鴻沼樋門を経て鴨川に合流する、流域面積 14.45km²、流路延長 10.1km の一級河川である。
- 鴻沼川は度重なる浸水被害の発生により、平成 9 年に一級河川に指定された。
- 鴻沼川の特徴は、新幹線、JR 埼京線、JR 高崎線、JR 宇都宮線、国道 17 号等の主要交通網が縦横に走り、また、さいたま市内でも特に人口密度が高い地区を下流している典型的な都市河川であることで、流域の約 9 割が市街化区域に指定されている。

河川整備の概要

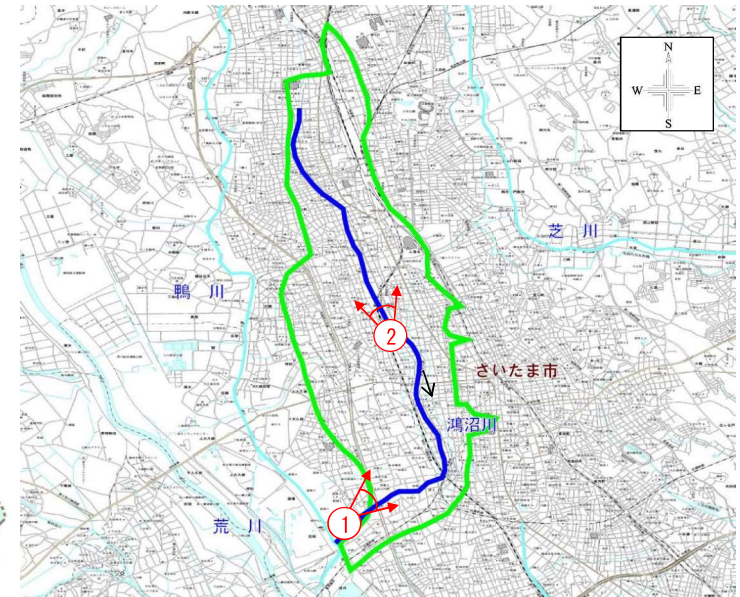
- 鴻沼川では、中里橋 (4.90km) から下流区間については浸水被害の防止、軽減のための目標を達成している。よって、河川工事は、中里橋から陣屋橋 (10.10km) までの合計 5.20km において、河道拡幅、河床掘削を行い、流下能力の向上を図るとともに、自然を活かした川の整備や親水性の確保を図る。
- また、5.10km 地点右岸と 7.60km 地点右岸において調節池の整備を行い、洪水流量の低減を図る。

整備にあたっての配慮事項

- 地域住民の憩いの場となるように、周辺の景観と調和した親しみやすい川づくりに配慮する。また、平坦な河床を避け、都市空間の貴重な河川空間の有効利用を図る。



流域図

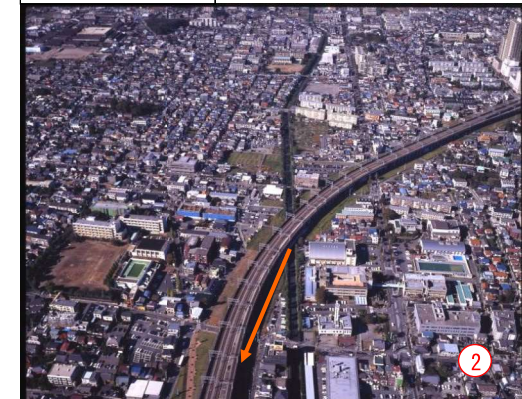


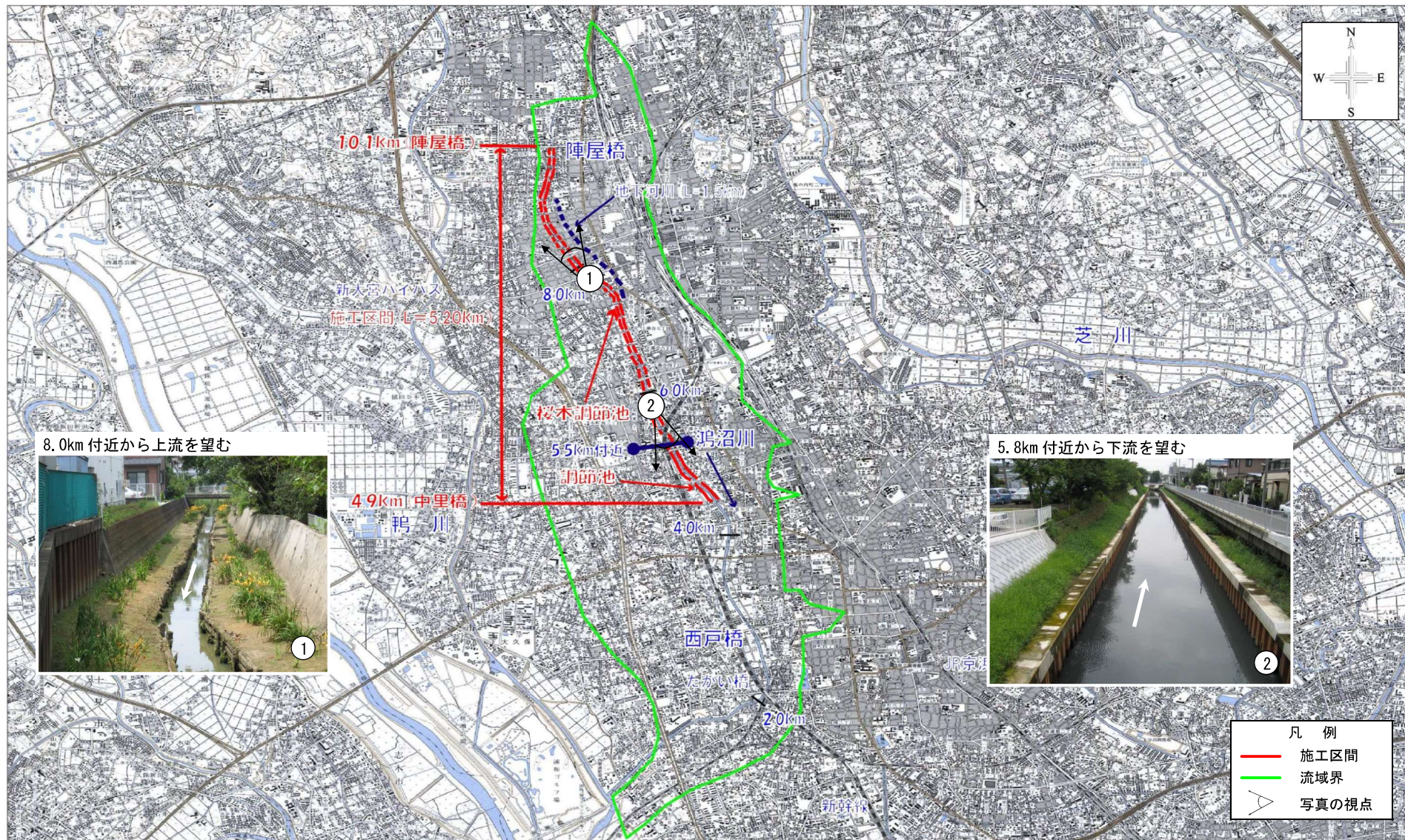
河川沿いの状況

1.0km 付近

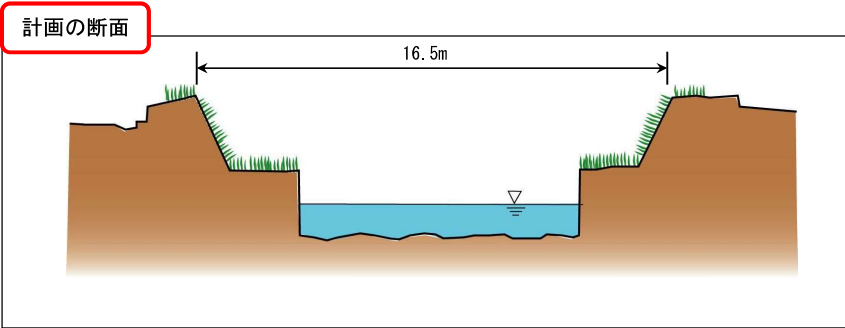
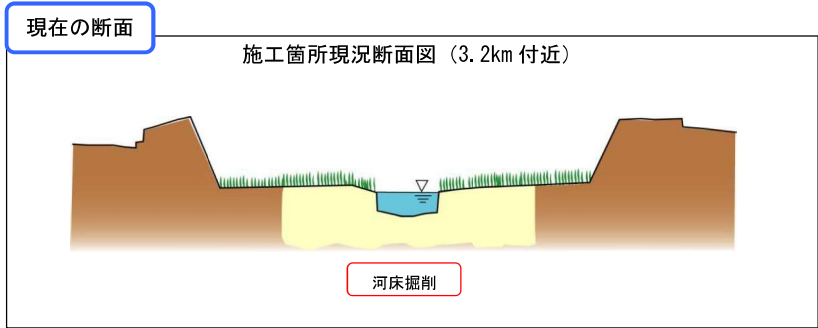


6.0km 付近

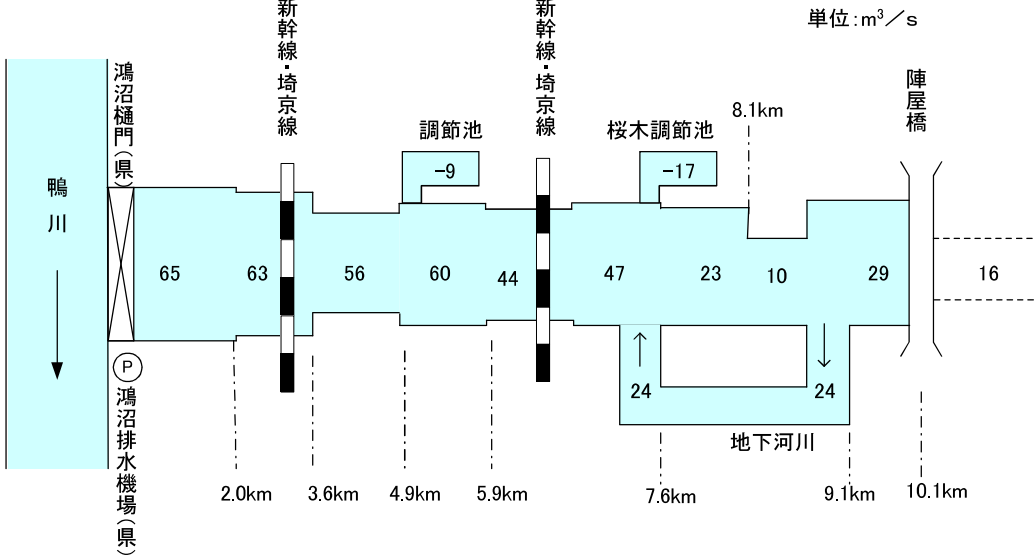




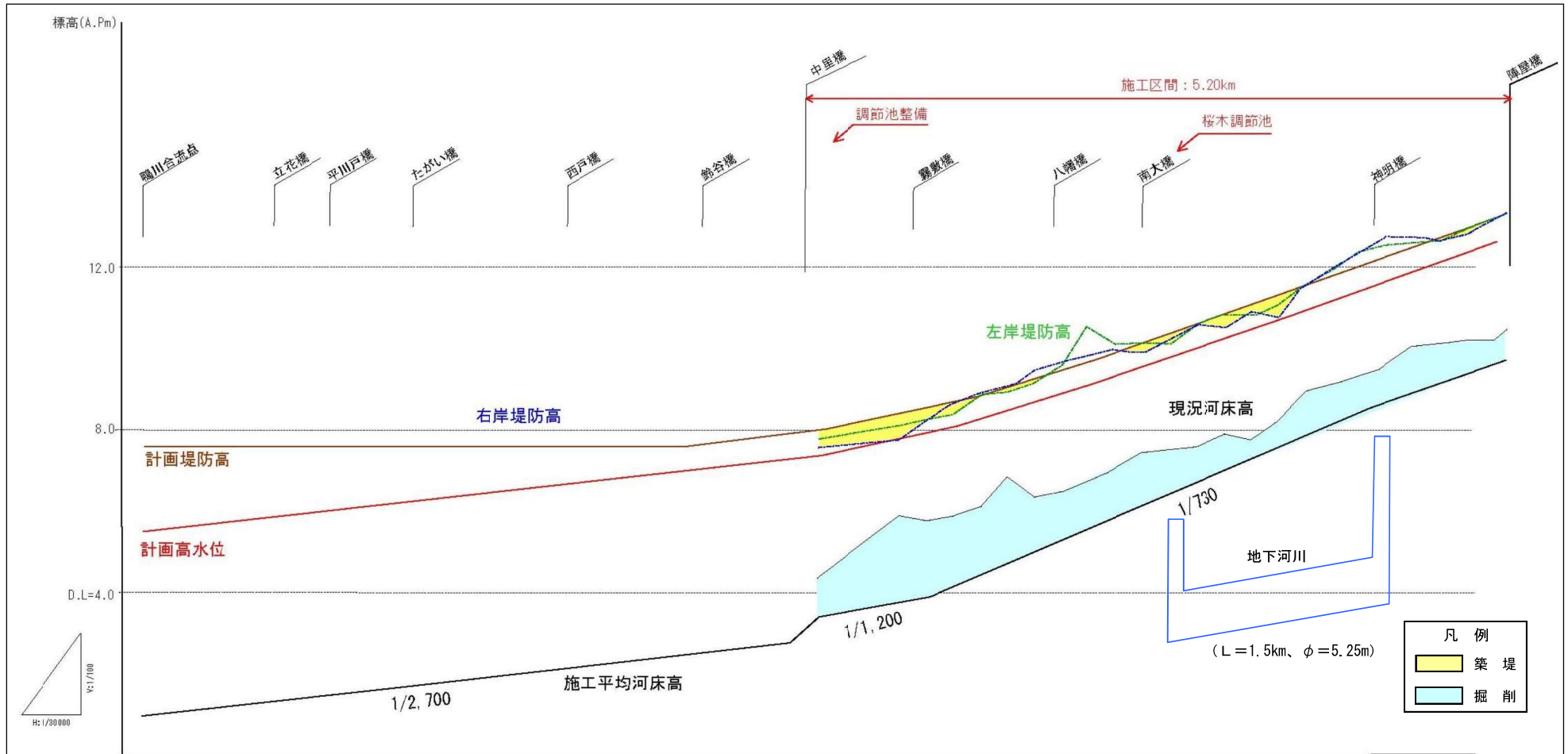
鴻沼川整備平面図 S = 1 / 50,000



流量配分図



鴻沼川縦断面図



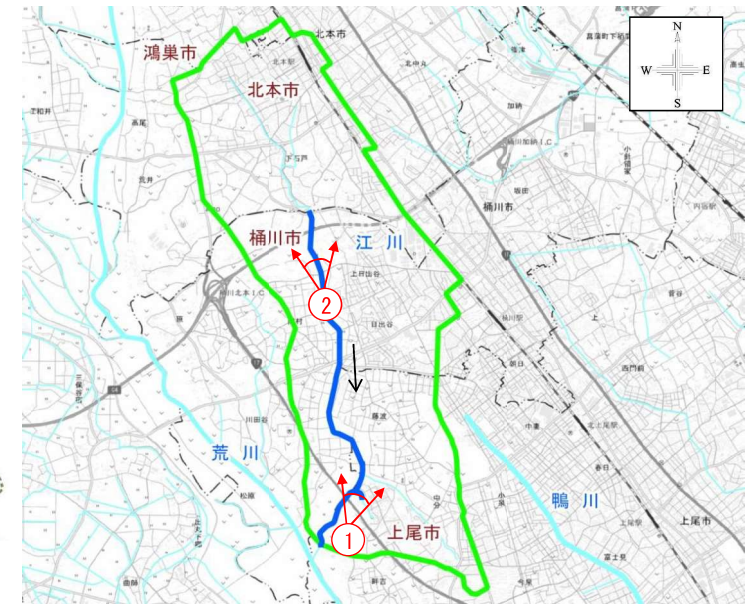
測 点	圖 平		
	堤防高	高水位	施工平均河床
0.0K	7.60	5.50	1.00
0.2K	7.60	5.57	1.07
0.4K	7.60	5.65	1.15
0.6K	7.60	5.72	1.22
0.8K	7.60	5.80	1.30
1.0K	7.60	5.87	1.37
1.2K	7.60	5.94	1.44
1.4K	7.60	6.02	1.52
1.6K	7.60	6.09	1.59
1.8K	7.60	6.17	1.67
2.0K	7.60	6.24	1.71
2.2K	7.60	6.32	1.82
2.4K	7.60	6.39	1.89
2.6K	7.60	6.46	1.96
2.8K	7.60	6.54	2.04
3.0K	7.60	6.61	2.11
3.2K	7.60	6.69	2.19
3.4K	7.60	6.76	2.26
3.6K	7.60	6.83	2.33
3.8K	7.60	6.91	2.41
4.0K	7.60	6.98	2.48
4.2K	7.66	7.06	2.56
4.4K	7.73	7.13	2.63
4.6K	7.80	7.20	2.70
4.8K	7.88	7.28	2.78
5.0K	7.98	7.38	3.38
5.2K	8.12	7.52	3.52
5.4K	8.25	7.65	3.65
5.6K	8.38	7.78	3.78
5.8K	8.52	7.92	3.92
6.0K	8.68	8.08	4.13
6.2K	8.88	8.28	4.41
6.4K	9.08	8.48	4.70
6.6K	9.28	8.68	4.99
6.8K	9.48	8.88	5.27
7.0K	9.70	9.10	5.56
7.2K	9.94	9.34	5.85
7.4K	10.17	9.57	6.13
7.6K	10.41	9.81	6.42
7.8K	10.64	10.04	6.71
8.0K	10.88	10.28	6.99
8.2K	11.11	10.51	7.28
8.4K	11.35	10.75	7.57
8.6K	11.58	10.98	7.85
8.8K	11.82	11.22	8.14
9.0K	12.05	11.45	8.43
9.2K	12.28	11.69	8.69
9.4K	12.52	11.92	8.92
9.6K	12.76	12.16	9.16
9.8K	12.98	12.39	9.39
10.0K	13.23	12.63	9.63
10.1K	13.35	12.75	9.75

流域および河川の概要

- 江川は、鴻巣市南部、北本市中部の大宮台地を水源とし、台地の谷底低地を流下し、宮下樋管を経て荒川に合流する、流域面積 17.35km²、流路延長 5.19km の一級河川である。
- 鴻巣市南部、北本市中部、桶川市西部、上尾市西部を流域に持っており、江川は度重なる浸水被害が発生したことから、平成 6 年に一級河川に指定された。
- 江川の特徴は、流域に良好な自然が残っており、サクラソウをはじめとした多くの湿地性動植物が生息・生育・繁殖していることである。また、埼玉県の中でも遺跡が多く分布する地域である。近年においては、上流域の台地部や北本市付近で急速に都市化が進み、都市河川へと変貌してきており、流域の約 6 割が市街化区域に指定されている。
- 江川下流域や荒川本川の中流域は、河畔林や旧流路、水田等の湿地環境が残存する多様な自然環境を有した地域である。首都圏に残された貴重な自然環境として評価され「保全すべき自然環境」として位置づけられている。江川下流域においては、水田を含めた湿地環境をいかに保全・再生・創出を図っていくことが課題となっている。



流域図



河川整備の概要

- 江川では、全川で河道改修が進んでいないため、中小規模の降雨でも浸水被害が生じている。よって、河川工事は、荒川合流点付近において排水機場^{水のきどぼし}新設および領家地区 (0.90km) から榎戸橋 (5.19km) までの 4.29km において、築堤、河道拡幅、河床掘削を行い、流下能力の向上を図る。
- 中上流部において調節池 (3.90km~4.30km) の整備を行い、洪水流量の低減を図る。

整備にあたっての配慮事項

- 江川流域づくり推進協議会の意見を尊重して整備を行っていく。
- 現在の自然環境を生かし、平水時の現況河道の特性を踏まえた整備を行う。また、長期的な安定を図れる河道とし、改修により影響を受ける動植物の生息・生育・繁殖環境の保全、復元を図る。
- 河畔林があるところでは、できるだけ河畔林を残せるように河道断面を工夫していく。
- 湿地環境にできるだけ影響を与えないような河道整備を工夫していく。

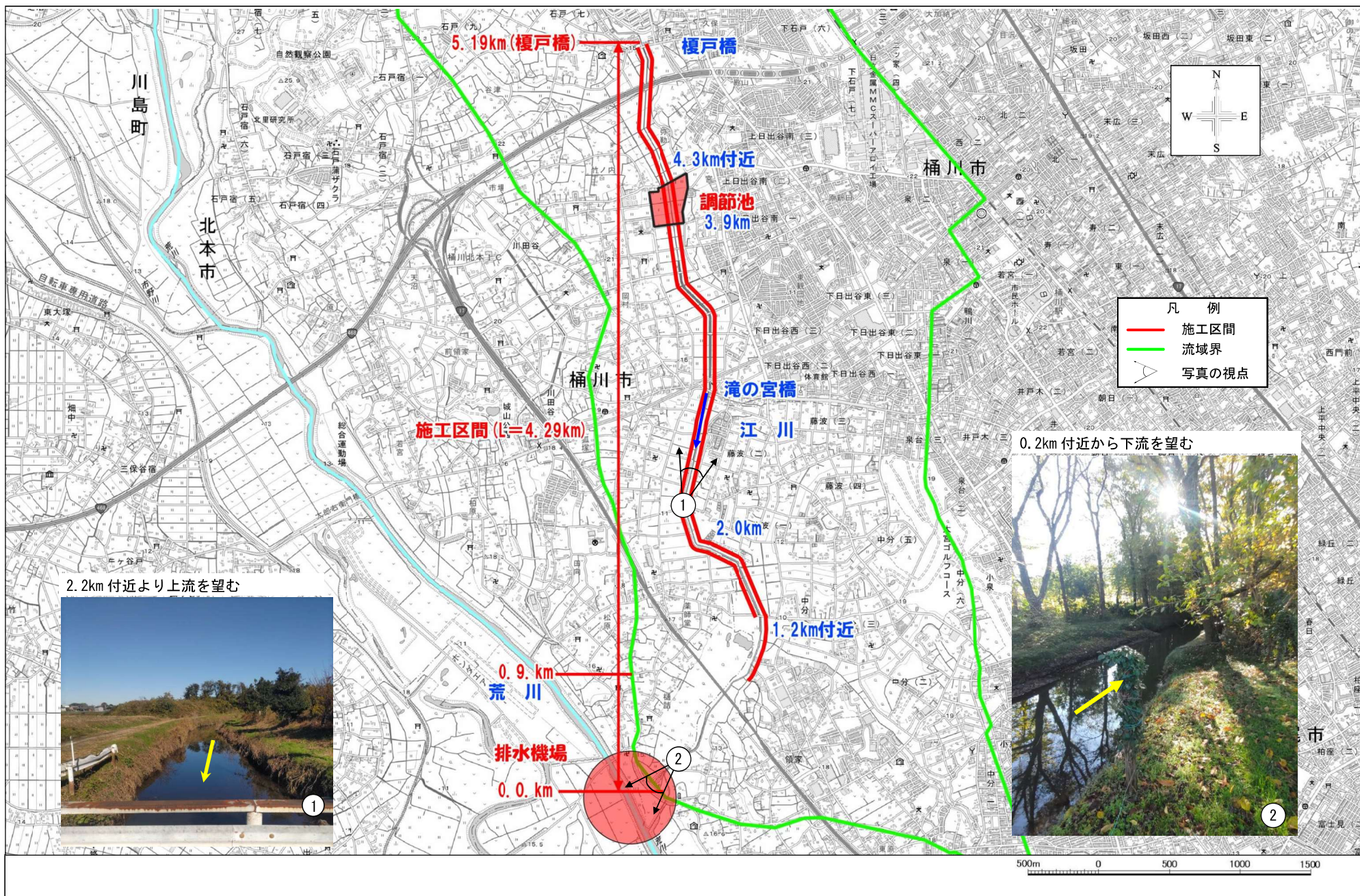
河川沿いの状況

1.5km 付近

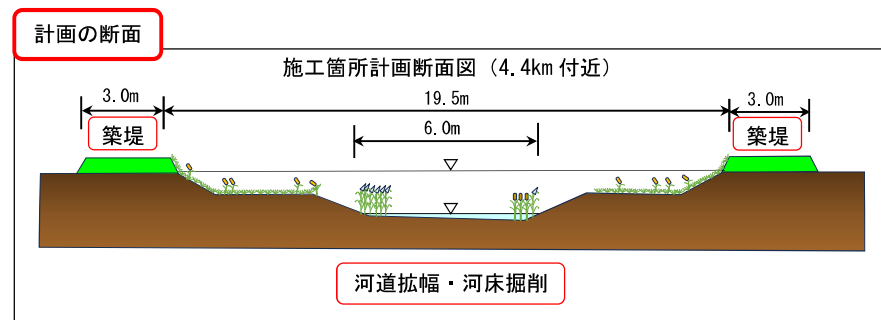
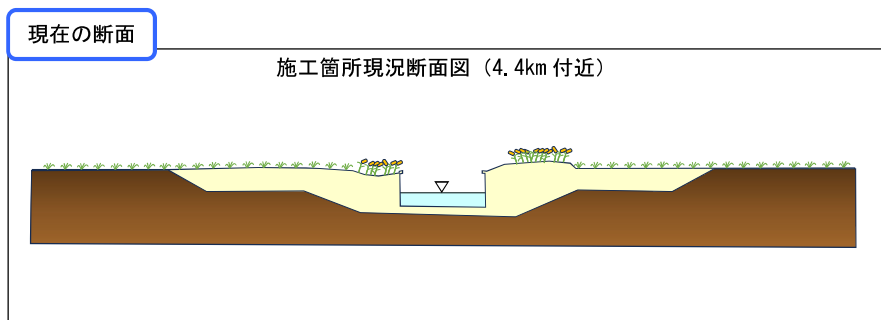
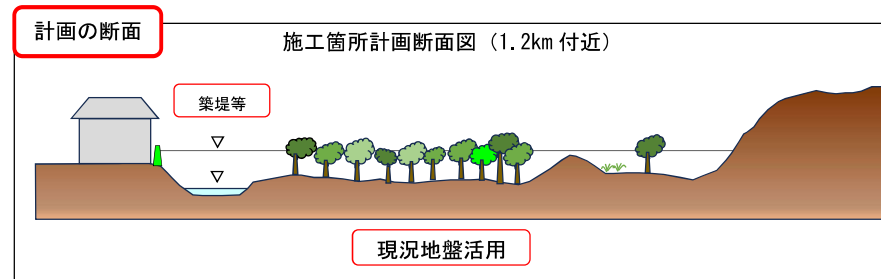
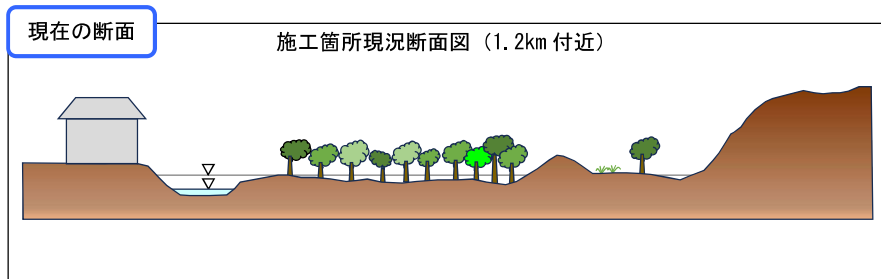


4.5km 付近





江川整備平面図 S = 1 / 25,000



流量配分図

